

巻頭言

充実してきたウェブサイト

佐久間 貞行

本誌「健康文化」も、奥書に記されているようにインターネットの URL（ホームページアドレス）<http://www.met.nagoya-u.ac.jp/KENKOU/index.html> で公開されている。

医療情報を入手する方法として、学会の集会、書籍などに加えてインターネットが主役の一つになっている。放射線医学関連でもとくに米国における最近のウェブサイトの充実振りは著しい。専門サイトに加えて、各大学や研究機関も競うようにサイトを設けている。その内容も充実している。広報とともに教育にも意を注ぎ、学生のみならず一般医師にも開放されているので、卒後教育にも役立つ。北米放射線医学会もオンラインジャーナルのほかに、会員のレフレッシュャーコースの一つとしてインターネットを活用し教育に役立つようプログラムも組まれている。毎日寝る時間を割かざるを得ない状況にある昨今である。

5年前の1996年「画像診断インターネットホームページガイド」（西谷弘監修、森本耕治著）が出版されている。欧米のサイトが100余、国内のサイトが20余、130を超すサイトが記された労作である。そのうちのいくつかのウェブサイトは無くなっているものもある。またリフレッシュされてますます良くなっているものもある。

よく閲覧する専門サイトは、<http://www.radiologylinx.com/> と <http://www.docguide.com/> である。前者は医学全般にわたる MDLinx.com の放射線部門である。E-mail でも週日には放射線医学に関連する15項目にわたる新しい文献のリストが送られてくる。後者も医学全般にわたるサイトであるが、希望に応じて Personal Edition を設定してくれてアクセスが容易になっている（私の場合 <http://www.docguide.com/dgc.nsf/o/SadayukiSakuma986>）。

その他 <http://radiology.medscape.com/> (Medscape)、
<http://www.dimag.com/> (Diagnostic IMAGING.com),

<http://www.medmatrix.org/> (MedicalMatrix)、
<http://www.radinfonet.com/> (Radiologyinfonet)、
<http://www.cu2000.med.upenn.edu/Radiology/index.htm>
(The Univ. of Pennsylvania)、
<http://meds.queensu.ca/medicine/radiology/shockwave/programs.html>
(Queen's Univ. Radiology Dpt.) などアメリカやカナダのサイトや、日本の
<http://www.asahi-net.or.jp/medical/index.html> (MedicalPlaza)、
<http://www.so-net.ne.jp/medipro/> (MedicalProfession) 、
<http://medwave.nikkeibp.co.jp/medipass/> (Medipass)
などをよく利用している。

<http://www.lib.tais.ac.jp/genji/> (大正大学附属図書館源氏物語写本)、
<http://www.ne.jp/asahi/onihei/class/> (剣客商売の彩色江戸名所図会)など最近
出会った楽しいサイトである。いずれにしても良いサイトに出会った時の嬉し
さ楽しさは格別である。

(名古屋大学名誉教授)